

授業改善書

科目名	教育心理学
担当者	尾形和男

授業の概要

教育に関連する諸問題の確認と心理学的な対応方法について、理論と具体例に基づいて解説を加えた。関連する事項としては、子どもの成長発達と家庭環境・学校環境、集団の特性、教師としての学級経営とリーダーシップ、効果的な授業展開、児童・生徒のやる気と動機づけ、教師としての適性などを取り上げた。授業は基本的にパワーポイントによって行い、文字による説明と同時に映像を入れて具体的に実感できるように工夫した。また、心理検査も実施し、自己の特性を理解してもらい、教師として自己を生かす方法について検討を加えた。

授業の問題点

学生の授業への学習態度、授業内容、授業方法、授業全般それぞれについて、基本的にはある程度達成されていると思われるが、2,3,4各時間の受講生の受け取り方に差があることが示された。授業としては同じ内容であり、学生の特性に合わせていたつもりであるが、十分ではなかった。今後、学生の特性をより詳細に把握して、学生のやる気を引き出し、わかりやすく役立つ内容を工夫する必要があると感じた。また、学生の授業態度として、授業外学習(予習や復習)、質問をする、といった学生主体の取り組みが相対的に低く、学習の成果が十分得られていないとも思われる。したがって、今後授業外学習に繋がる課題を授業を通して課していくことも検討したい。

授業改善の課題・方策

授業の問題点として指摘したように、3クラスの学生の特性が個々に異なることがあり、そのためにできる限り学生の特徴を把握したうえで、学生のやる気を引き出せるように工夫が必要である。学生の興味関心をより引き出すためには、パワーポイントの内容の再検討、質問内容の吟味などについて考える必要がある。また、一方で、学生が受け身ではなく主体的に積極的に関心を持って授業に参加できるようにする工夫も必要と感じる。具体的には、講義の中で、一方的に話をして終わらせるのではなく、学生にも考えてもらう時間を作り、多くの学生に考えを発言してもらうこと、それを基にみんなで考え合うことなど工夫がさらに必要であると考えられる。さらに学生が単に出席とノートを取るだけでなく、自ら予習などを通して学習内容をより深く理解してもらう工夫もしたいと考える。例えば、次回に行う内容についてあらかじめ調べてもらいレポートとして提出してもらうことによって、関心を深めると同時に理解と実践力アップに繋げることも考えられる。

その他

特になし。